

民生福祉委員会視察研修報告

廿日市市総合健康福祉センターあいプラザ

大牟田市小規模多機能型居宅介護施設

私は民生福祉委員会の視察研修で10月12日から14日まで広島・福岡訪ねました。その内容を報告します。

広島県廿日市 広島県の西部に位置、人口11万8千人余、面積489㎢余。宮島町、大野町とH17年に合併し、世界遺産厳島神社が市域となった。

総合健康福祉センターの運営と課題は

平成14年の開設。地上3階地下1階延床面積約8300㎡、保健センター、社会福祉協議会、子育て支援センター、ボランティアセンター高齢者・障害者デイサービスセンターが配置されている他、休日・夜間急患診療所も開設されている。運営は社協に委託している。

感想・参考点 廿日市市では都市整備事業で市役所を移転整備、周辺の土地も確保し健康福祉センター、文化会館なども一体となって整備され市民の利便性が高い。

建物も広いスペースを確保しているが合併もあって現在は手狭となってきていることや駐車場の不足が問題とのこと。誰でもが利用しやすいよう各種機能を有した「だれでもトイレ」、上下2段の手すり、各種の表示を大きくする・絵文字を多用するなど障害者高齢者に配慮されている。病院はJAの550床の急性期病院が近くにあるが、市民に安心をあたえるため休日夜間診療所を併設した。医師は開業医の協力の輪番制で、身分は非常勤特別職としている。H21年度は365日で7,442人の利用があった。小児は対象としていないので市民の一部不満もある。



あいプラザの内部、正面は社協の窓口

西広島リハビリテーション病院

S61年開設の都市型リハビリテーション専門病院。ベット数139床、診療科目はリハビリテーション科、整形外科など、介護老人保健施設・人間ドック施設なども併設。経営は医療法人社団「朋和会」。

高橋よしひろの議会活動通信

2010年10月21日号

袋井市大谷245TEL・FAX(48)6100

E-mail:wbs35910@mail.wbs.ne.jp

http://www.yoshihiro-takahashi.net

ブログ「美博の東奔西走」更新中!

回復期リハビリテーションの実際は

回復期リハは、発症後、または手術後2ヶ月以内の方が対象で病名や治療内容によって入院期間が厚労省で定められている。ここでは年365日リハビリ訓練を実施し、機能回復と社会復帰を図っている。スタッフは医師9名、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などリハビリスタッフ88名、看護師81名の体制。全体に若い職員が多く、雰囲気明るくはつらつとしている印象を持った。

感想・参考点 日本は世界でも「寝たきり率」が高く、スウェーデンの10倍、アメリカの8倍にもなっている。この要因は回復期の後の維持期のリハビリ提供体制の違いにあるとのこと。退院後の訪問リハなどにも力を入れる為訪問リハビリステーションも設置、退院後の受け皿となる老人保健施設も併設するなど地域連携も重視している。

経営は、100%他病院の紹介入院で、病床稼働率は90%の目標をほぼクリアしており良好とのこと。今後老朽化した建物改修に向け積み立てが課題となっている。

リハビリ治療の内容や医療制度、今後の方向性まで解説をいただき、大変参考となった。



西広島リハビリテーション病院の正面口から

福岡県大牟田市

福岡県の南端に位置、人口12万6千人余、面積81㎢余。三池炭鉱などで栄えたが閉鉱、現在は産業都市として再構築を図っている。九州新幹線の全線開通により新大牟田駅の供用も予定されている。

認知症になっても安心して暮らせるまちに

大牟田市は高齢化率が高く29.7%、要介護認定率も18%と袋井市よりは10年先を行っている感じ。そのため、高齢者福祉や介護事業に力をいれている。その事業の一つに平成14年から「地域認知症ケアコミュニティ推進事業」を始めた。

その内容は、①認知症コーディネーターの育成(毎月2回の講義受講、期間2年間)現在6期生までの59名が研修終了。②早期発見・早期支援・予防教室の拡充(物忘れ相談健診の実施、認知症予防教室の開催)③物忘れ相談・地域支援体制構築事業(認知症コーディネーター・システムアップ事業、認知症ケアサポートチームの運営、ケアマネジメント・センター方式の実践研修など)④世代間交流・他分野交流・国際交流によるまちづくりの推進(認知症サポーターの養成講座、子どもたちの認知症理解のための絵本教室、徘徊ネットワークの全市的活動)など多くの事業がしかもきめ細かに取り組まれていた。

小規模多機能型居宅介護施設の

全小学校区設置のねらいと効果は

小規模多機能型居宅介護の基本的考え方は、「通い」を中心として、要介護者の様態や希望に応じて、随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせるサービスを提供することで、在宅での生活継続を支援する。というものです。大牟田市では全小学校校区への小規模多機能型居宅介護施設の整備をすすめ、現在37ヶ所に設置、残り4地区となっている。この取り組みは全国でも先進的な取り組みです。事業者は公募で選定しておりますが、市独自の指定基準(運営推進会議への報告、家族会の設置、認知症コーディネーター養成研修、介護サービス事業者協議会等への加入、研修への参加、指定要件)を課しています。また、施設には介護予防拠点・地域交流拠点を併設することとされ、ここを拠点に地域住民などにより各種事業が活発に取り組まれている。

介護施設「リビングアエル」



住宅街の一角に設けられた小規模多機能介護施設、中心市街地に近い2200世帯、4千人の小学校区がエリア。市の掲げた理念に共感し開設したという経営者でありケアマネージャーでもある若い中島氏の「利用者を車で5分圏内として、住み慣れた自宅で暮らし続ける支援をしたい」というから話に感心した。

地域交流センター「和」



市営住宅の一角に設けられた「ケアタウンたちばな」の1施設。周囲には社会福祉法人天光会の運営する介護予防・相談センター、訪問介護サービス事業所、小規模多機能介護施設、デイサービスセンター、特別養護老人ホームなどが配置され一体的にサービスを提供している。

市営住宅の住民の高齢化率は60%で、住民同士の支援の場、交流の場として活用されている。

福岡県福岡市

人口146万人の政令都市、面積341㎞²余。九州の中核都市であり、アジアの交流拠点となっている市。

福岡市健康づくりセンター「あいろ」

地上10階地下2階、延べ床面積18,195㎡の大きな施設。開館は平成6年。健康づくりセンターの他、中央区の保健所、精神保健福祉センター、婦人会館などが配置され、運営は財団である健康づくりセンターが指定管理者となって行なっている。市から委託された健康づくりの調査や研究、特定健診、特定保健指導、教育・研修事業、禁煙教室など普及・啓発も行なっている。



写真は、施設内の食育の体験施設「ウェルネス・ストーリー」なかの、陳列されている料理サンプルを選んでパソコンに入力すると簡単に食事バランスが学べるというもの。小学生など年間4万7千人が訪れている。